

手術組織の確保についてのご説明

手術



手術後、病院では必ず摘出がん組織を病理検査に廻し、ホルマリンという液に漬けた後、蠟で包んだ塊状(パラフィン包埋ブロックといいます)の標本として保存されます。

病

理

検

査



プレパラートから自家がんワクチンを作製することは出来ません

「自家がんワクチン」の作製には、ホルマリン漬け標本、またはパラフィン包埋ブロックが必要です。これらの中の‘がん’の部分が1.5gから2g以上(大人の手の小指の第一関節から上の部分以上の大きさ)を目安として下さい。パラフィン包埋ブロックの場合、1個では不足する場合が多く、3~4個以上もらって下さい。

ホルマリン漬け標本・パラフィン包埋ブロックをお受け取りの際に！

「この部分が‘がん’です」という図(右図参照)を描いて頂けるよう、先生にお願いして下さい。簡単な図で構いません。その部分を削りだして「自家がんワクチン」を作製します。



(例)

